

5-1

演題	シャロームからのラブレター
副題	～地域をつなぐお弁当～

法人名	社会福祉法人 三育福祉会
施設名	特別養護老人ホーム シャローム

発表者名 (職種)	大比良 朗子 栄養士
共同発表者	大堀 あゆみ
共同発表者	三葛 真理
共同発表者	諸田 恵津子
共同発表者	向井 洋子

都道府県	神奈川県
住所	横須賀市走水 1-35
TEL	046-842-1031
FAX	046-842-1324
メールアドレス	shalom@yokosuka-shalom.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	特別養護老人ホーム 106 名、ショートステイ 14 名、ケアハウス 20 名 在宅ケアセンター（デイサービス、施設入浴、訪問介護） 地域包括支援センター・居宅介護支援センターを併設
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

【地域を応援!! 配食サービスの 4 年間で振り返る】
在宅高齢者向け配食サービス「シャローム 手作りフレあいお弁当」は、当施設主体となって 5 年目を迎えた。
これまでを振り返り、地域にどのように貢献できているかを検証し、今後の課題について考察する。

取り組んだ課題

当施設では横須賀市の委託事業として、在宅高齢者向け配食サービスを 25 年間にわたり実施してきたが、H30 年度 市の政策転換により委託終了となった。しかし、当施設のある横須賀市大津・浦賀地域の在宅高齢者の自立生活支援・介護予防のための配食サービスの必要性は高い状況であった。

(地域の特徴)

- 市内で最も高齢化率が高い地域である(高齢化率: 32.0%*)。一方で、要介護・要支援認定率はそれほど高くない(15.7%・市内 7 番目**)。介護サービスを利用せず自立して生活する高齢者が比較的多い地域である。
- 坂や階段が多い地形で、バス路線のない地域もあるなど高齢者世帯では食料品の買い物や外出が困難となるケースが多くみられる。

具体的な取り組み

- 地域のニーズに応えるため、H31 年度(R 元年度)より当施設が主体となり、配食サービス「シャローム 手作りフレあいお弁当」として継続した。
- 公的な助成が得られない中、弁当の内容や栄養価を維持できる最小限の価格改訂を行った。
- 地域包括支援センターや居宅介護支援事務所、民生委員を通じてご利用者の拡大に努めた。
- メニューを記載した日々のお便り「ラブレター」とともに、お弁当を手渡しで配達している。

活動の成果と評価

- 委託事業終了後、ご利用者は一旦大幅に減少したものの、現在少しずつ増加してきている。

- ご利用者の継続率は高く「いつもありがとう」「美味しく頂いています」など感謝の言葉を頂いている。
- 配達は原則手渡しのため、ご利用者の安否確認や様子の変化に気づけば民生委員に繋ぐなど、セーフティネットの役割を担っている。
- 配達スタッフは、有償ボランティアやアルバイトの大津地域の 60～80 歳代の元気な皆様。ご利用者やスタッフ仲間と日々顔を合わせ、配達業務が「生活のハリ」「生きがい」「フレイル予防」につながっている。

今後の課題

- 健康支援型配食サービスとして療養食の強化
住み慣れた地域で生活するための手段として、フレイル予防の配食サービスであるので、療養食や嚥下調整食といったきめ細やかな対応をさらに行っていく必要がある。
- 福祉の配食・共生社会の配食をアピール、認知度の向上
地域を元気にし、食を通して人をつなぐ役目でもある福祉の配食・共生社会の配食であることを幅広い方に認知して頂き、利用を促したい。
- 採算性の向上
持続可能な事業とするために採算性の向上が課題である。食数の拡大、コストの見直しなどを図る。
- 配達スタッフの継続的な人員確保
- 感染症との共存
コロナ禍を経験し、改めて感染対策の大切さを認識。また感染者宅への配食はニーズがあり、「いざという時に頼れる」配食サービスでありたい。

参考資料など

* 平成 27 年度国勢調査

** 平成 27 年横須賀市介護保険課調べ